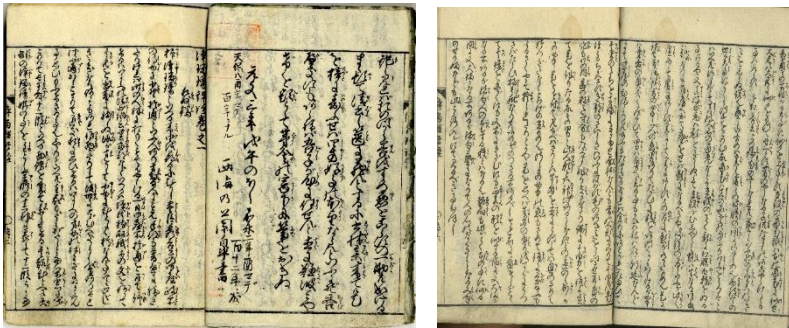


なにわみやげ

#22 難波土産

作者：穂積以貫（ほずみ・いかん 1692-1769）あるいは
三木貞成（みき・さだなり 生没年不詳）

刊行：元文3年（1738）



[912. 4/20/1]

📖 解題

■ 内容

5巻5冊。義太夫節浄瑠璃の評注書。外題に「浄瑠璃文句評註」とある。「お初天神記（おはつてんじんき）」、「国姓爺合戦（こくせんやかっせん）」など浄瑠璃9編を選び、注釈とともに趣向や文章に批評を加えている。

巻之一「発端」に近松門左衛門が作者に語った言葉として、聞き書きの形で「虚実皮膜」を載録していることでよく知られている。近松門左衛門自身が浄瑠璃や演劇論について著述したものがなく、芸術観を知りうるほとんど唯一の資料となっているためである。

第6節に「芸といふものは実と虚との皮膜の間にあるもの也」、「皮膜の間といふが此也（ここなり）」とあることから、広く「虚実皮膜（きょじつひまく）」とも呼ばれているが、当館所蔵本の「皮膜」には「ひにく」とルビがある。

■ 作者

作者については、穂積以貫あるいは三木貞成としている文献もあり諸説ある。穂積以貫、三木貞成はいずれも江戸時代中期の儒学者伊藤東涯（いとう・とうがい）門下である。

穂積以貫は近松門左衛門と親交があり、浄瑠璃作者近松半二の父である。三木貞成は備前岡山の富裕な人で、大阪に出かけて浄瑠璃に親しんだと言われている。

📖 本文を読む

< 版本 >

『浄瑠璃文句評註 難波土産 卷之一～卷之五』浪速書房 1738

[912.4/20/1] - [912.4/20/5]

< 翻刻 >

「浄瑠璃文句評註 難波土産」（『新群書類従 第6 歌曲』国書刊行会 1907）[081/4/6]

『浄瑠璃文句評註 なにはみやげ』上田万年校訂 文憲堂 1926 [912.4/6]

< 現代語訳 >

「難波土産発端」守随憲治訳（『古典日本文学全集 36（芸術論集）』筑摩書房 1962 [918/11/36] ※抄訳

📖 参考文献

「虚実皮膜論」（『鑑賞 日本古典文学 第29巻 近松』角川書店 1981）
[918/112/29]

野間光辰「『浄瑠璃文句評註 難波みやげ』の作者」（『近世芸苑譜』野間光辰著 八木書店 1985）[910.25/79]